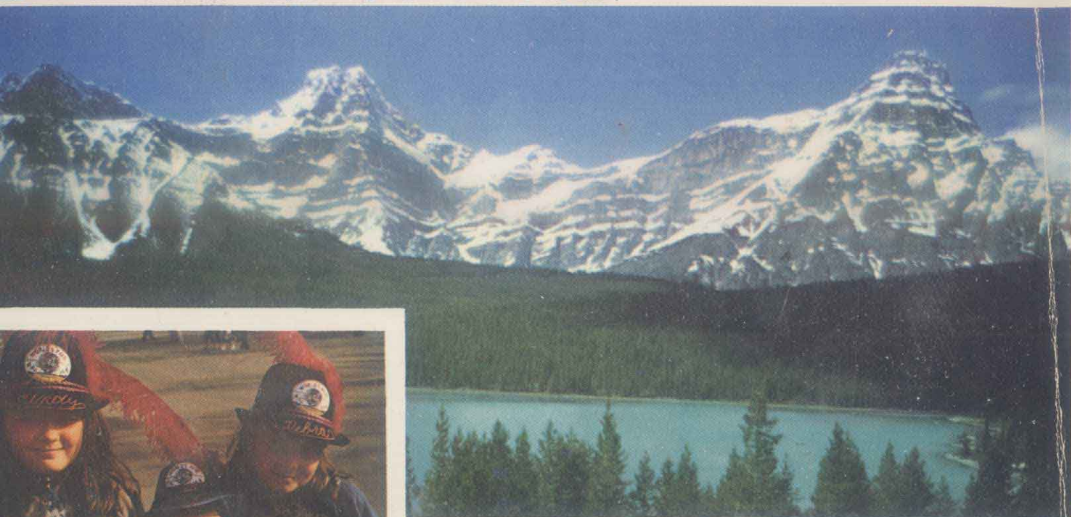




1



2



4



3

■ N D C 9 0 9 昭和42年 5 0 2 P 2 2 ・ 5 cm 小学館版

—— 少年少女世界の名作文学／第16巻／アメリカ編7 ——

■ 昭和42年2月20日発行

■ 少年少女世界の名作文学／第16巻／アメリカ編7

■ あしながおじさん／あの山越えて／白いきば／荒野の呼び声

■ 定価／四八〇円

■ 編者／◎名作選定委員会

■ 発行者／相賀徹夫

■ 発行所／株式会社小学館 東京都千代田区神田一ツ橋二ノ一

■ 電話／東京(263)二一一一

■ 振替／東京二〇〇番

■ 印刷・製本／大日本印刷株式会社

■ 本文用紙／本州製紙株式会社

■ 表紙クロス／東洋クロス株式会社

執筆者紹介
しつぷりしやどきかい

森いたる／大正2年、静岡県

に生まれる。日本児童文芸家

協会会員、ユーモア作家クラ

ブ会員。主な著書に、私のグ

チ日記、チコトン通信

村松千代／明治29年、新潟県

に生まれる。東京作家クラブ

会員、児童文芸家協会会員。

主な著書に、雨月物語、ああ

無情、山椒大夫

鶴田知也／明治35年、福岡県

に生まれる。昭和11年芥川賞、

同30年小学館文学賞を受く。

主な著書に、コシヤマイン記、

土の英雄

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一落丁・乱丁
などの、不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

少年
少女 世界の名作文学—16

アメリカ編—7

あしながおじさん・あの山越えて
ウェプスター原作 カールトン原作

白いきば・荒野の呼び声
J・ロンドン原作

西川正身編



小学館

はじめに ……

西川正身

このアメリカ編には、つぎのような四つの物語をおさめました。

まず最初の『あしながおじさん』は、孤児院で育ったひとりの少女が、ある人の世話を焼くうちに、それから卒業するまでのあいだに経験する、さまざまなことを扱っています。孤児院出の女の子の話、というところ、あるいは、はじめにしたものをお感じになるかもしれません。ところが、そうしたところはすこしありません。明るくて楽しい、また、ほほえましくもある物語です。

つぎの『あの山越えて』は、初めのと違つて、悲しい話です。夫にも、それから苦労して育てあげたわが子にもそむかれる、あわれな母親の生活がえがかれていて、しみじみとしたものを感じさせます。

残りのふたつの物語、『白いさば』と『荒野の呼び声』は、どちらも同じ作者が書いたものです。両方とも大を主人公にしていますが、冒険とスリルにみちているうえに、アラスカの自然が美しい筆でえがかれていて、最初のふたつの物語とはまた違った感銘をあたえてくれます。

このように、この巻でも、それぞれに傾向を異にする作品を集めてみました。

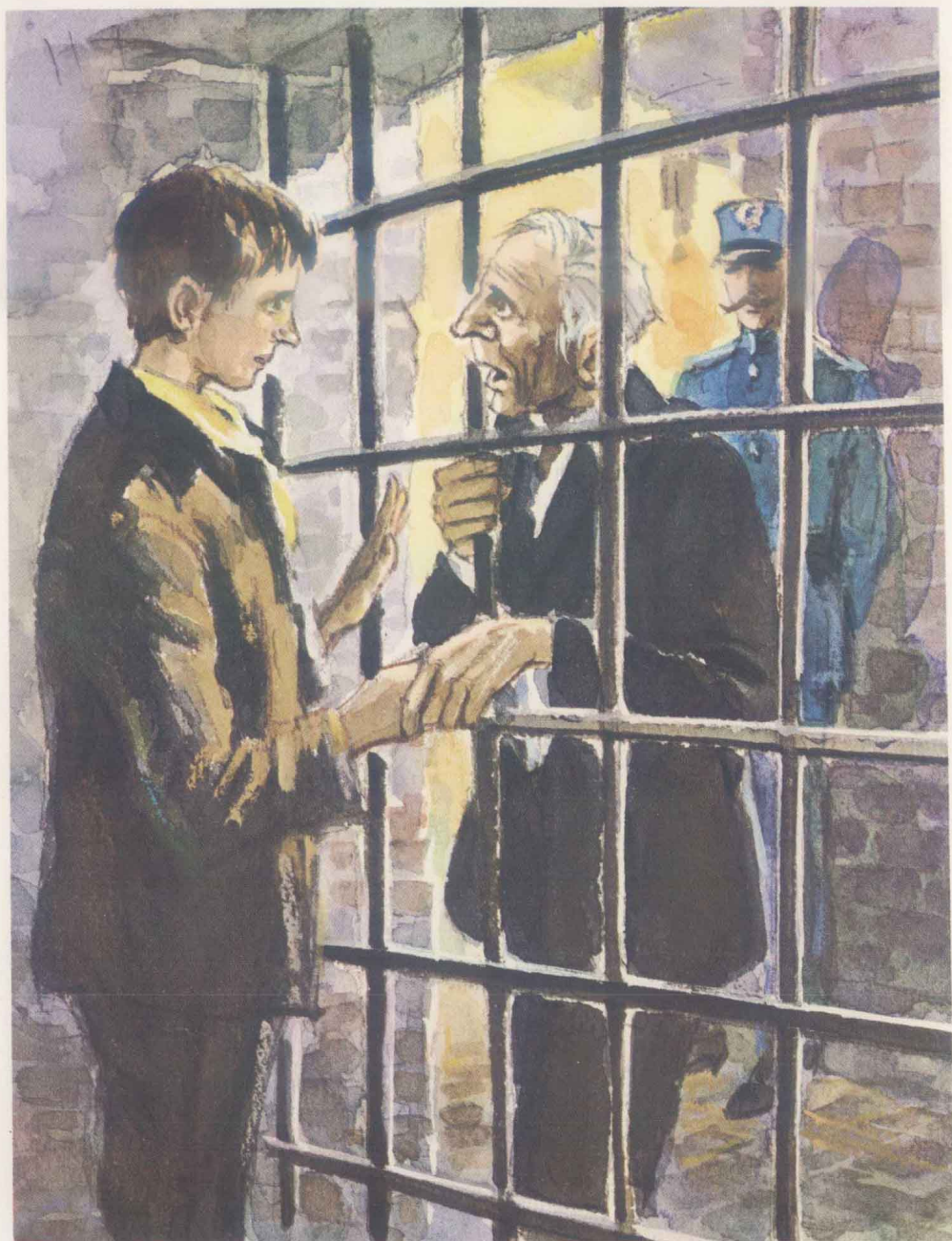
みなさんは、四つの物語のなかで、はたしてどれをいちばん興味深く読まれることでしょうか。



あしながおじさん

わたし、ひとりの^男性と、とてもすばらしいひとときを過^すぎました。背^せの高い^{たかい}すてきな紳士^{しんし}ジャービスさんです。そのかた^{かた}と大学^{だいがく}の構内^{こうない}を散歩^{さんぽ}しました。なぜかわたし、このかたと、ずっと古^{ふる}くからのお知り合^あいのような気がします。

65ページをごらんください。



あの山越えて

父の罪をかばって、身代わりに刑務所にはいったジョニー。
 冷たい暗い監房に浮かぶジョニーの顔は、めっきりやつれて
 いた。父と子は、鉄ごうしを間にひしと固く手を握りあった。

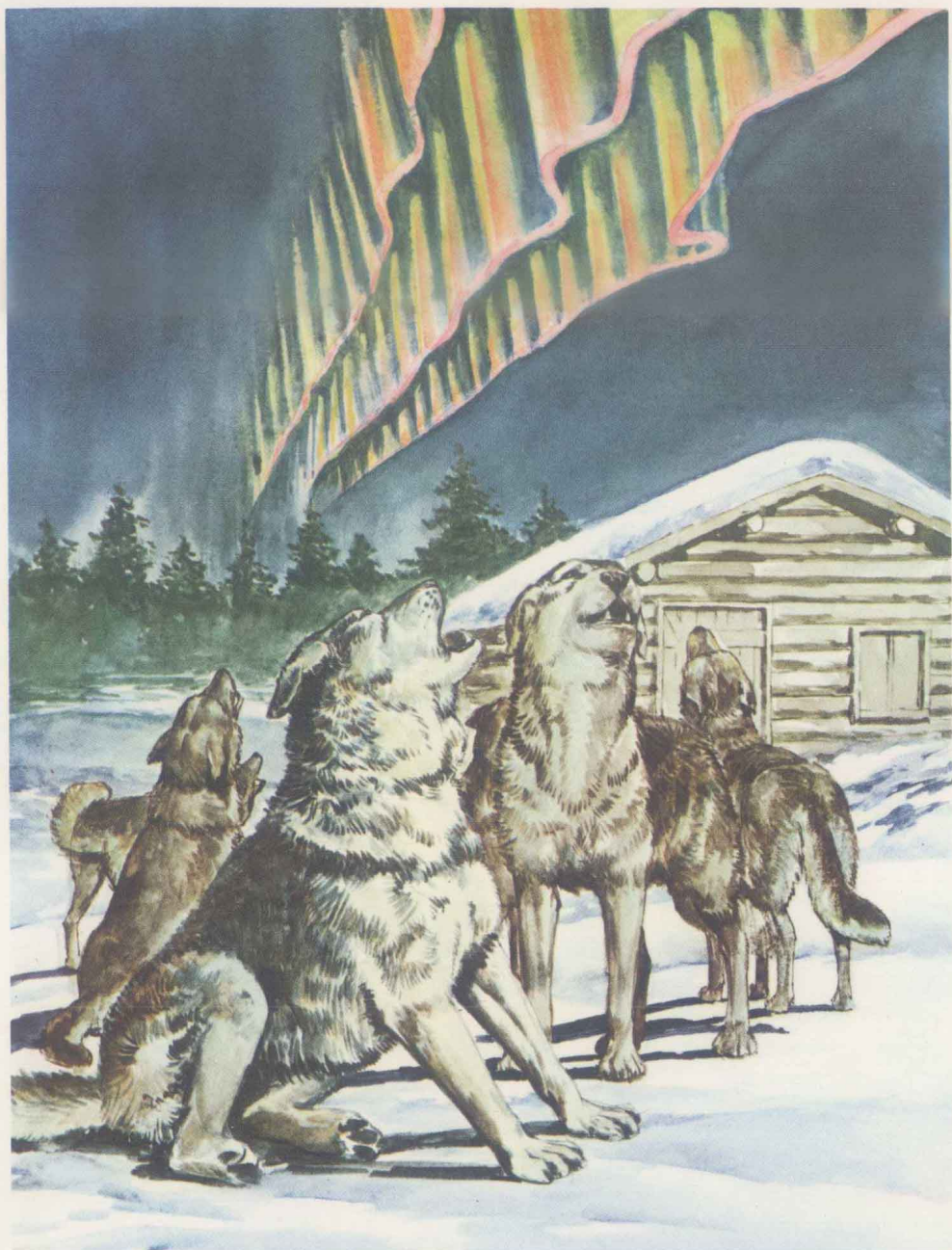
274ページをごらんください。



しろ い き ば

ピストルを手にしたあやしい人影を見た白いきばは、その人影に猛然と飛びかかった。たいせつな主人一家の危険を本能的にさとった、忠実な犬の闘志は、すさまじかった。

365ページをごらんください。



荒野の呼び声

南国生まれの犬バックが、北極光を見るのは、初めてだった。
エスキモー犬にさそわれて、ほえるバックの声は、ものがな
しく、遠く、北極光に向かって、ひびき渡るようだった。

411 ページをごらんください。

もくじ

少年
少女

世界の名作文学 16

アメリカ編 7



はじめに.....2

あしながおじさん

ウェブスター作.....19

ゆううつな水曜日.....21

ジェルーシャ・アボットから

あしながおじさんにだした手紙集

大学一年生.....30

大学二年生.....77

大学三年生.....125

大学四年生.....155

卒業してから.....178

あの山越えて

カールトン作^{さく}……………199

- (一) けんかのはじまり……………201
- (二) アイザックのひがみ……………205
- (三) 鏡の前の姉妹……………209
- (四) あだうちは油虫で……………214
- (五) 遅刻は先生のせい……………218
- (六) とんがり鼻と三角まなこ……………224
- (七) イサベラの慰め……………230
- (八) 気を失ったメリー……………235
- (九) 悲しみのパーティー……………240

(十)	ストロング邸の灯……………	245
(十一)	夜空の銃声……………	248
(十二)	馬どろぼうをつかまえてみれば……………	251
(十三)	こだまは叫ぶ……………	256
(十四)	逃げていくベントン……………	259
(十五)	美しい囚人……………	264
(十六)	ああ、ジョニーはいない……………	270
(十七)	ひとりぼっちのメリー……………	276
(十八)	二度めの決心……………	278
(十九)	ジョニー西部へ行く……………	283
(二十)	とび散る真珠……………	287
(二十一)	お金のゆくえ……………	291

(三十二) ふしぎな気候……………295

(三十三) あの山越えて……………299

(三十四) 床をはうショール……………303

(三十五) 養老院で……………308

(三十六) 希望ふたたび……………311

しろ 白いきば

J・ロンドン作……………317

(一) 灰色の子どもおおかみ……………319

(二) 世界のかべ……………322

(三) 肉のおきて……………330

(四) 火を作るもの……………333

(五) 自由をうばわれて……………339